‘宮川早生’におけるＳ．マルチの品質向上効果の実証

（カンキツ輸出に向けた高糖度果実安定生産技術と鮮度保持技術の確立事業）

農研機構が開発したＳ．マルチ栽培を本県において普及するため、みかん研究所内に実証園を設置して品質向上効果・雨水遮断効果を検証した。

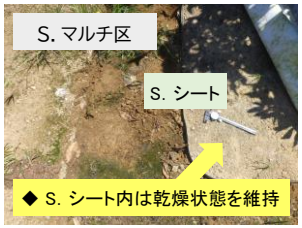
試験設計

供試樹　:11年生 ‘宮川早生’
試験区　:S.マルチ区、慣行マルチ区
被覆日　:令和6年7月上旬
試験規模:6反復
土壌特性 :粘土質の赤土で、降雨が多いと乾きにくい



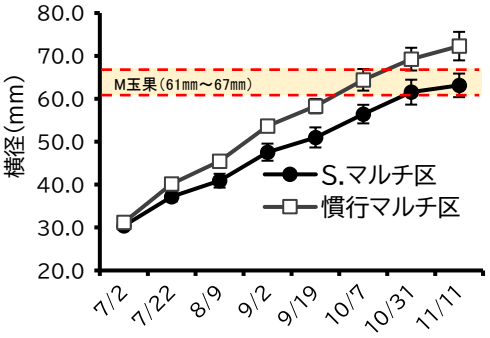
令和6年・台風10号通過後の土壌

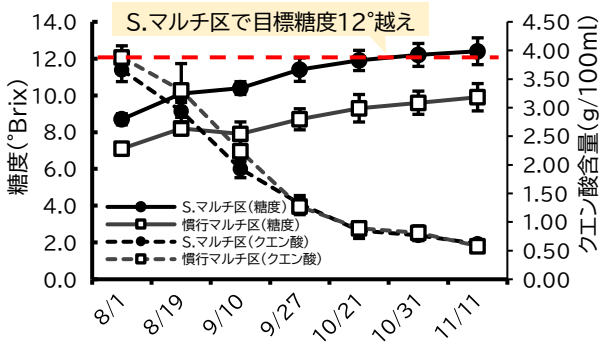
※8/28～30に145.5mm降雨を観測（みかん研究所内）





S.マルチ栽培が果実肥大・品質に及ぼす影響

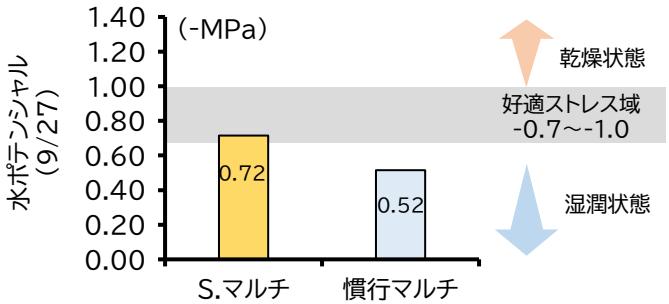




◆ S.マルチ区では目標のM玉果主体であり、慣行マルチ区に比べ、糖度が約2.5° 高かった。

1日約80mm以上降雨後の乾燥ストレス状態

※9/22に86.5mm降雨を観測（みかん研究所内）



◆ S.マルチ区では降雨後も好適ストレス域を維持

Ｓ．マルチは台風等で大雨が降った場合でも水分ストレスを確実に付与することができ、高糖度な温州みかんを生産できる。

愛媛県 農林水産研究所 果樹研究センター みかん研究所